


教材・支援機器活用実践事例【ICT】

自ら操作して漢字の読みを覚えるための ICT 活用 「漢字フラッシュカード」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・小学部1年
	障がい名等	肢体不自由
	子どもの実態 (学習上又は生活上の困難さ等)	・漢字の習得初期段階。場面や状況によって、教師の質問に答えられずに沈黙することがある。
授業について (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	国語
	単元(題材)名	単元名「かん字のはなし」
	単元(題材)の概要	◎第一学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。 ○語と語の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。
教材・教具支援機器について	教材・教具 支援機器	タブレット端末、TVモニター 
	ねらい・工夫点	〈ねらい〉 ○提示された漢字を読むことができる。 〈工夫点〉 ・マイクロソフト社のアクセシビリティで提供している文字のスライドデータを利用し、新出順にグループを作成。10文字程度ずつで取り組めるようにした。< https://www.microsoft.com/ja-jp/enable/ppt/moji.aspx#coreui-banner-6o5jpje > ・TVモニターに投影し、前を向いて読むことができるようにした。 ・回答の後に、○×の効果音を教師が鳴らすことで、クイズ形式で取り組めるようにした。
	材料・作成方法等	タブレット端末、PC
子どもの変容や評価		・教科書やプリントでの学習に比べて、大きい声で回答することができた。 ・繰り返し取り組むことで、読み方を習得することができた。